



今日のキーワード 『法人企業統計』、経常利益が持ち直し

『法人企業統計』は、企業活動の実態を把握する目的で実施されている統計調査で、財務省から3カ月に1度発表されます。2019年1-3月期の全産業（金融・保険業除く）の設備投資は前年同期比+6.1%と、10四半期連続のプラスでした。売上高は輸出やITセクターの減速が重石となるなか、同+3.0%と鈍化し、製造業の低迷が目立ちました。経常利益は非製造業がけん引し、同+10.3%と2期ぶりに増益に転じました。

ポイント1

設備投資は前年同期比+6.1%

GDPの基礎統計となる「ソフトウェア除く全産業」は前期比+1.1%

- 6月3日に発表された2019年1-3月期の『法人企業統計』によると、全産業（金融・保険業除く）の設備投資は、前年同期比+6.1%と10四半期連続のプラスとなりました。内訳をみると、製造業は同+8.5%と前期（10-12月期）の同+10.9%から伸び率が縮小しました。業務用機械が同▲17.9%と、大きく減少したことが影響しました。一方、非製造業は同+5.0%と、前期（同+2.7%）から伸び率が拡大しました。
- GDP改定値を算出する基礎となり、注目度の高い「ソフトウェア除く全産業」の設備投資の季節調整後の前期比は同+1.1%と、2期連続プラスとなりました。

ポイント2

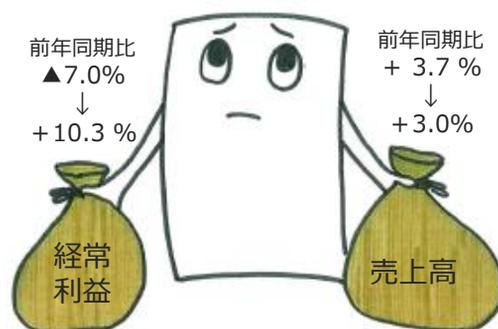
経常利益は増益へ転換

売上高は鈍化

- 全産業（金融・保険業除く）の経常利益は、前年同期比+10.3%と、前期の同▲7.0%から2四半期ぶりに増益となりました。内訳をみると、製造業が同▲6.3%と前期の同▲10.6%から減益率が縮小し、非製造業は同+18.4%と前期の同▲4.9%から増益に転じました。
- 売上高は同+3.0%と、前期の同+3.7%から鈍化したものの、10四半期連続で増収を維持しました。内訳をみると、製造業が同+1.1%と、業務用機械などの減少で前期の同+3.9%から伸び率が縮小しました。非製造業は、前期から横ばいの同+3.7%でした。



米中貿易摩擦への
懸念は・・・？



今後の展開

米中協議の行方に注目

- 『法人企業統計』の設備投資（ソフトウェア除く全産業）は、GDP速報値や市場予想を上回りました。これは6月10日発表の1-3月期のGDP改定値に反映されるため、設備投資は上方修正される見通しですが、在庫投資が下方修正される可能性が高く、GDP改定値は速報値と大きくは変わらないとみられます。
- 一方、製造業における売上高の減速や経常利益の減少は、米中貿易摩擦の影響が色濃く表れていると考えられます。米中の関税引き上げ合戦が行われるなか、引き続き今後の米中協議の行方が注目されます。

ここも チェック!

2019年5月16日 4月の『街角景気』は現状判断DIが小幅改善

2019年5月13日 『オフィスビル』市場は今年もひっ迫が続く

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。